

---

# 笑い

Drealist

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

笑い

### 【Nコード】

N2115C

### 【作者名】

Drealist

### 【あらすじ】

隣の部屋から男と女の笑い声が聞こえてくる。うざい。なにがおかしいんだ。

無性に腹が立っていた。

耳から入ってくる感情とは裏腹に、俺はキレる寸前だった。

薄い壁からは、延々と笑い声が聞こえている。

もう2時間にもなる。

朝方からの激しい雨で家にこもっていたらこれだ。

一体なにが楽しいんだ。

こんな安アパートで1人暮らししてるくせに。

俺と同じ身分のくせしやがって、なにがそんなにおかしい。

そう独り言ちていたが、だいたい答えはわかっていた。

彼女がいるからだろう。

何度か隣のヤツとはすれ違ったし、そのときに女を連れていたから、そいつが彼女だろう。

聞こえてくる笑い声には、女の哄笑も混じっている。  
いいご身分だ。

2人分の笑い声は、まるで俺を嘲笑っているように聞こえる。  
どうせオレは3年も一人身だよ。

それから俺はなおも耐えた。  
辛抱強いのは、俺の長所だ。

けれど、さすがに我慢の限界だ。  
俺は握り拳を固め、立ち上がった。

するとパツと窓の外が光った。

目をやると、空気を揺るがすような雷鳴が響いた。そしてバチンと鳴るとともに、部屋が真っ暗になる。

一目で停電だとわかった。

視覚がさえぎられると、雨音がうるさく聞こえた。

そして、いつのまにか笑い声は消えていた。

雷にビビったと踏んで、俺は壁に耳を付けた。

聞こえてきたのは、泣き声だった。

急にバンと耳元でなにか鳴ったと思うと、隣から小声で叫ぶのが聞こえた。

「こんな別れ方ってなーよ……」

一瞬で光がついた。

電気がもとにもどったと思うと同時に、部屋の隣から笑い声が響いた。

俺は、なんとなく理解した。

さっきまでの哄笑は、俺に対してではなく隣の部屋のヤツに対しての嘲笑だったように聞こえていた。

耳から入ってくる感情とは裏腹に、哀しくなるのが不思議だった。

雨脚は、まだ強くなりそうだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2115c/>

---

笑い

2010年10月11日20時49分発行